

# 松政クラブだより

No.7  
H22.9

## どこへ行くのか日本丸 市政の諸課題に向かつて

松江市議会・松政クラブ

会長 田中 弘光

去年九月の政権交代によって誕生した鳩山政権が米軍普天間基地の移設問題等々により辞任に追い込まれて、菅内閣に代わりましたが、その直後の七月に行われた参議院議員選挙で、民主党は国民の皆様から手痛いしっぺ返しを受けることになりました。多くの国民の目がマクロ的視点から判断し、政権運営・政治手法に対して警鐘を与えたとも読み取ることが出来ます。

このところ下降傾向が目を追って強まる景気の現状と、急速に進む円高・株安等に直面しても、急がれるこれらの政策課題に対して何ら有効な対策を打つこともなく、専ら九月の代表選に次期総理に誰を選ぶかに汲々としている様を報道で知るかぎり、失望を感じているのは私達だけではないと思えます。



南波 巖議員

田中 弘光議員

会派研修会及び行政視察（東京）

ひるがえって、松江市政を考える時、将来を見据えた定住対策の着実な実践をはじめ雇用対策の拡充、市内各産業の振興策や安全安心な街づくり事業の進展等々重要課題が山積しております。

松政クラブとしても市議会最大会派として、市民の皆さんにとって今何が大事で、今何が急がれているかを絶えず根底で考えながら、市政の諸課題に果敢に取り組んで行かなければなりません。

更に、昨年議会改革の一環として、より開かれた松江市議会、市民の皆さんに身近に感じて頂ける議会活動を目指し、町自連と公民館長会のご協力をいただき初めて取り組んだ「議会報告会」では、多くの方々から貴重なご意見やご指導をいただきました。今年度も引き続き、明年の一月中旬から二月中旬にかけて昨年同様各地区毎に開催する予定であります。

又懸案でありました東出雲町との合併が両市町議会が夫々合併協定書を承認・議決し、来年の八月に人口二十一万人の新松江市が誕生することになりました。その他来年三月には「松江歴史館」の新装オープンや松江開府四百年祭の最終年を控え、この秋には市民大綱引き大会や明年には大博覧会の開催も予定されています。

私達松政クラブとしても、より活力があつて、より明るく、より住みやすい「松江の街づくり」事業の実践のため、今後も議会活動の一層の活発化をめざし努力致しますので、市民皆様の変わらぬご支援とご指導を心からお願ひ申し上げます。

## ●会派研修会及び行政視察

◎七月十五日  
東京 「排出量取引をめぐる動向」について



員 謝 野 光 徳 川

## ●総務部会・教育民生部会

◎七月十六日  
松本市 「健康寿命延伸都市・松本」創造プロジェクトについて  
現地視察・松本城

◎七月十七日  
長野市 現地視察・もんぜんぶら座・防災市民センター

## ●経済部会・建設環境部会

◎七月十六日  
函館市 「函館市景観計画」について  
青森市 「コンパクトシティのまちづくり」について

◎七月十七日  
「青森市総合都市交通戦略」について

◎七月十七日  
青森市 現地視察（中心市街地活性化について）  
・複合型商業施設「アウガ」・パサージュ広場  
・新町通り商店街・アスパム通り商店街  
・アスパム

●健康寿命延伸都市松本市の健康寿命と交通政策を結びつけたまちづくりの創造はすばらしいと思った。（交通政策は公共貸し自転車システムの導入と自転車専用レーンの設置、LRTの導入など）  
（南波 巖）





石倉茂美議員

出川修治議員

立脇通也議員

三島進議員

●松本市は長野県の中央に位置し、穂高連峰等、標高三千米級の高峰がそびえたつ地域であり、松本平は、これらの河川が運搬した砂礫などが堆積して形成された土地である。松本城は江戸時代築城され、六万石の城下町として繁栄した地域であった。松江市と良く似た所であると私は思う。今後の松江市としては一点の場所の町づくりでなく、松江駅を中心とした町づくり、そして宍道湖を取り入れた舟の町づくりが必要と思う。(石倉茂美)

●今回視察した長野市は行政主導ではなく民間のまちづくり事業会社が強力なリーダーシップをとり、大型空き店舗対策や空き蔵、民家を再生したテナントミックス商業施設を黒字化させた注目の地域である。その中心的役割をはたしたタウンマネージャーの講演会が昨年米子市であり、その時から是非現地を見たいと思っていたので「もんぜんぷら座」「ばていお大門」等を視察でき大変有意義であった。松江市も大橋川拡幅や次世代交通対策等の課題もあり、まちづくりに困難はつきものだが「夢を語り合うことを繰り返す」ことが必要だと現地で痛感した。(出川修治)



野津照雄議員

三島良信議員

●現地視察では各種の展示館・施設に注目し、ホールディングスや記念館に参考とすべくシアター方式、展示方法、等を注視し、三百六十度から見渡せる大型スクリーンの映像“は是非記念館で採用したい”と思いました。(野津照雄)

●青森市のまちづくりについて。中心市街地の空洞化(病院・百貨店など大型店の郊外移転)、市街地の拡大と雪による負荷(年間除雪費十二億〜三十億円)によりコンパクトな都市を目指している。(二十年間ぶれない土地利用政策と総合都市交通戦略を展開中)(三島良信)



川島光雅議員

●とかく批判的になりがちの議員視察研修ですが、「百聞は一見にしかず」で疑問や難問を解くヒントを得ることがよくあります。また、意欲的に取り組んでいる事例に触れると私たちも大いに勇気とエネルギーをもらいます。団体で研修を行うことにより受け入れ自治体や企業団体の対応も丁寧で真剣に対処してくれ、相手方も私たちとの情報交換で得るものがあるのです。また、団体行動による移動経費が節減できることも大きな利点です。「井の中の蛙」にならず、「犬も歩けば棒に当たる」の如く自己研鑽に務めております。(川島光雅)



田中豊昭議員



森脇敏信議員



比良幸男議員



●函館は日本の中でいち早く開港された港町であり、徳川幕府終焉の地でもあり、並みを形成し、その景観の保全を、市民の認識と協力の下、条例化し、歴史にまで下り、経緯あり。その景観は、有ります。結ぶ。松江市の光都の産物が結ぶ。松江市の後に参考は、中心市街地の活性化。青森では中心市街地の現象など。この地方都市も抱えている。中心市街地の過疎化であり、中心市街地の削減、観光施設や商業施設の整備により、中心市街地の活性化を図られ、中心市の成果を挙げておりました。今後新幹線の乗り入れ等により、益々其の成果が上がっていくものと思われまいます。(田中豊昭)

●函館市景観計画は歴史・文化・地勢・成り立ち等を強調し、それを保存・活用しようとする計画である。地区別に住宅地景観ゾーン・住商複合地景観ゾーン・港湾地景観ゾーンを設定し、それぞれが特に歴史的環境としての調和を図ることを特徴としている。更に、観光客を意識し、来訪者にとって、くつろぎの場となるよう環境の整備に努めている。野外広告物の表示や掲出する物件についても、歴史的建造物が多くある地域などは函館市の特色を生かしながら制限を行っている。函館市の美観や風致が損なわれず、歴史と伝統を保全し継承しようとする景観計画への熱意が感じられた。(比良幸男)

野津直嗣議員



貴谷麻以議員



加藤富章議員



山本勝太郎議員



●温暖化対策としての排出権取引については山林を多く持つ地方として新しいビジネスの可能性、また函館・青森市でのコンパクトシティへの取組みについては高年齢が進む松江市にとっても今後大切な課題だと考えました。(野津直嗣)

●「長野市を流れる犀川は水量が増加すると、国策が発動。支流から犀川へのポンプ排水が国交省によって止まります。下流域の新潟など信濃川の氾濫を防ぐためです。長野市の団地のいくつかはいわば貯水池に。まさに政治的葛藤です」。教育民生部会と総務部会は東京研修から松本市・長野市研修へと移動。会派研修は、先輩議員のお話も聞くことができて、新人議員にとつて得難い経験にあふれています。(貴谷麻以)

●松本城の天守閣は、城の二辺を幅広い内堀に囲まれ、広大な城郭の中にあり、古い歴史を感じさせ周囲も景観に配慮された恵まれた立地条件の中にそびえ立ち、松本市のシンボルであった。これらの景観には地元住民の理解と協力の下に管理され、国宝化を目指す松江市にとって大変参考となる視察であった。(加藤富章)



林干城議員



●松本市健康寿命延伸都市の構想と松江市の健康まつえ21は共に健康をキーワードとしているが、松本市の場合、「心の健康づくり」と「暮らしの環境づくり」の二本柱のもとに様々な施策を集め、総合政策と位置づけている。一般的な健康検診、保育、教育はもとよりベンチや生活道路の整備も健康の中に体系づけている。健康との関係がこじつけの感もあるが、市の最重要政策が「健康寿命」と市民にPRする効果は期待できる。(林干城)

吉金隆議員



●松本市では平均寿命から要介護等の期間を引いた健康寿命延伸都市と松江城と同様に払い下げにあい買戻された国宝松本城天守が筏状の設えで支えられていることを習いました。長野市では地震の体験・消火体験などが常設されている防災センターともんぜんぷら座。ばていお大門を視察研修いたしました。もんぜんぷら座は大型店の施設転用でさほど目新しさも無かったが、ばていお大門は門前通りもありその有り様は素晴らしいものでした。(吉金隆)

森脇幸好議員



●松本市では「健康寿命」を延ばす施策が保健分野はもとより、都市基盤整備等様々な分野が連携し総合的に推進されていた。また、各地の風土、従来からの自治の仕組みを最大限に生かした地域づくりが進められていた。徹底さを感じた。(森脇幸好)

松蔭嘉夫議員



●青森市は、人口減少社会の到来、豪雪地帯、新幹線開業の環境のなか、鉄道網と路線バス網の提携を強化し中心市街地の活性化策が行われています。その取り組みの一つとして駅前に複合型商業施設「アウガル」がオープンしており、生鮮市場では地元海産物、農産物等が大規模に販売され観光客等年間六百万人以上の利用があります。松江市で地元産品の販売施設が計画されており参考になるものと思いました。(松蔭嘉夫)

森脇勇人議員



●中心市街地活性化の考え方、合併した周辺部の活性化、便利さの向上、コンパクトシティをいまままでの考え方だけでなく松江市独自のプロジェクト化に対応させることができないか、更に研究したい。(森脇勇人)

### 松江市議会 Q&A

●常任委員会って何のためにあるの？  
市議会で審査する議案は、たいへん多くまた広範囲にわたることから、これを本会議の場において議員全員で一斉に審査することは効率的ではありません。そこで、部門ごとに分かれて、能率よく、審議あるいは調査を行うために委員会を設けています。松江市議会には四つの常任委員会(総務委員会・教育民生委員会・経済委員会・建設環境委員会)があります。